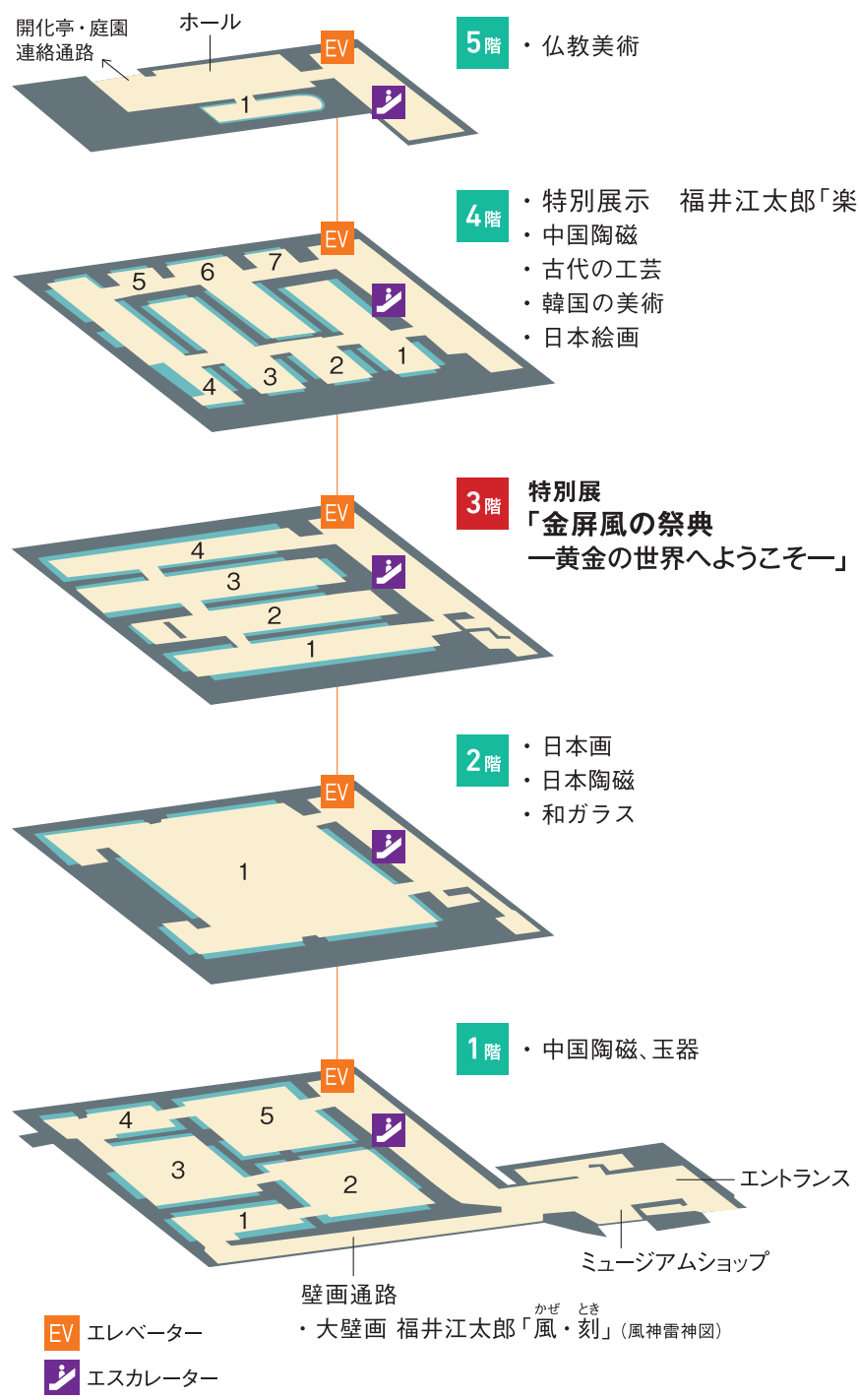


常設展示のご案内

岡田美術館は全5階、展示面積約5,000㎡の館内に、常時約450点の美術品を展示しています。

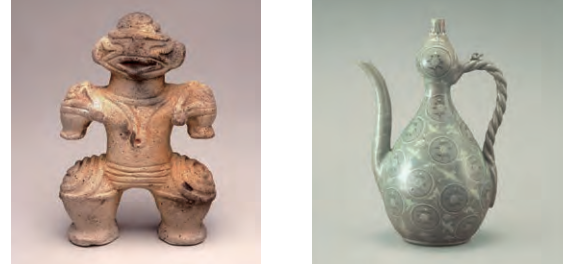


■5階展示室
重要文化財「木造薬師如来坐像」をはじめ、仏像や仏画、密教法具など折りの世界をご覧ください。



中央「木造薬師如来坐像」 平安時代 11世紀 重要文化財
左右「木造二天王立像」 平安時代 10～11世紀

■4階展示室
3階の特別展「金屏風の祭典」の特別展示として、2023年5月13日に行われた福井江太郎氏のライブペインティングの作品「楽」を披露します。そのほか土偶・埴輪・青銅器など古代の工芸、中国・韓国の陶磁器などを展示。



「土偶」 縄文時代晩期 紀元前1000～紀元前400年
「青磁象嵌雲鶴菊文瓢形水注」 韓国・高麗時代 13世紀

■1階展示室
中国の陶磁器と玉器(一部に韓国・日本の陶磁器)を展示。とりわけ中国歴代の陶磁器が質・量ともに充実しています。



「豆彩団花文缸」 景德鎮窯 中国・清時代 乾隆年間(1736～95)
「色絵竹文大皿」 有田・古九谷様式 江戸時代前期 17世紀中頃

次回展予告 広重「東海道五十三次」と日本の風景(仮) 2024年6月9日(日)～12月8日(日) ※会期は変更になる場合があります。

アクセス

〈電車・バスをご利用の場合〉

新宿 から	小田急線(特急ロマンスカー)■約90分→箱根湯本駅 ①伊豆箱根バス(のりば①)・箱根登山バス(のりば②)■約20分→小涌園 ②箱根登山鉄道■約35分→小涌谷駅 伊豆箱根バス・箱根登山バス■約2分→小涌園
東京駅 から	東海道新幹線「こだま」■約35分→小田原駅 伊豆箱根バス(のりば⑤)・箱根登山バス(のりば③)■約40分→小涌園
強羅駅 から	施設めぐりバス■約5分→小涌園

〈お車をご利用の場合〉※所要時間は、交通状況によって大きく異なります。
東名厚木IC ▶ 小田原厚木道路 ▶ 箱根IC ▶ 国道1号線 ▶ 岡田美術館【約60分】
東名御殿場IC ▶ 国道138号線 ▶ 宮ノ下 ▶ 国道1号線 ▶ 岡田美術館【約40分】



「二条城行幸図屏風」のうち左隻(部分) 江戸時代前期



金屏風の祭典

黄金の世界へようこそ

Gold Screens Festival
Welcome to the World of the Gold

2023 12.17(日)～2024 6.2(日)

※ 休館日 12.31(日)・1.1(月)

午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
一般・大学生 2,800円(2,550円) 小中高生 1,800円(1,550円)

※()内は前売り料金。前売券(JTBレジャーチケット、チケットぴあ)は、主要コンビニエンスストア並びにチケットぴあにて販売
※団体割引(10名以上)・障害者割引あり ※美術館ご利用の方は、駐車場・足湯入湯料無料
※展示内容や各種イベントを変更する場合があります。ご来館前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください。

岡田美術館
OKADA MUSEUM OF ART

〒250-0406 神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷493-1
TEL 0460-87-3931(代表) www.okada-museum.com

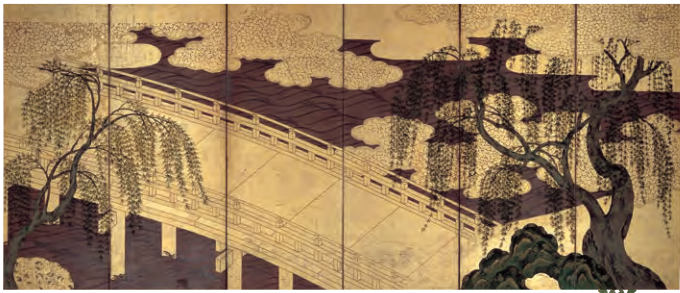
バス停「小涌園」より徒歩すぐ



足形光琳「菊図屏風」のうち右隻(部分) 江戸時代前期



「柳橋水車図屏風」 江戸時代前期 17世紀
川の波紋の黒い線は、銀が変色したもの。金箔を大きめに切って貼った雲など、古風なスタイルを伝える屏風。



狩野派「松に鶴図屏風」 江戸時代初期 17世紀
ヒナを交えた6羽の鶴が遊ぶ四季の庭。地面には銀の野毛（箔を細長く切ったもの）がまかれている。



狩野派「春夏花鳥図屏風」(右隻) 桃山時代 16世紀
切れこみの深い金雲を木々と山々の間に配して奥行を作る。桃山時代の8曲1双の貴重な屏風。



会期中のイベント

参加無料(要入館料)
※定員あり 会場:5階ホール

※各イベントは、変更または中止する場合があります。
ご来館前に当館ホームページにて最新情報をご確認ください。

講演会 講師：小林 忠 (岡田美術館 館長)
狩野派の金屏風
3月23日(土) 午後1時～午後2時30分

★申込方法 電話にてお名前・人数・ご連絡先をお知らせください。
定員に達し次第、応募を締め切らせていただきます。

関連講座 講師：小林 優子(岡田美術館 主任学芸員)
金屏風さまざま
一金雲と金地に注目してー
2月24日(土) 午後1時～午後2時30分

関連スライドトーク 講師：塩谷 尚子(岡田美術館 学芸員)
やきものにおける金と銀
4月13日(土) 午後1時～午後2時

琳派の金屏風
5月11日(土) 午後1時～午後2時30分

0460-87-3931

◆館長によるギャラリートーク
※いずれも木曜日 午後1時30分～
12月21日、1月4日・25日、2月8日・22日、3月7日、
4月11日・25日、5月23日

◆学芸員によるギャラリートーク
※毎週月・金曜日 午前11時～
12月22日～5月20日
月曜:常設展示、金曜:特別展「金屏風の祭典」

※申込不要



輝く黄金で画面を装った金屏風は、空間を
晴れやかに演出する調度品です。国内で幅広
く使われるだけでなく、室町時代から幕末に
至るまで「日本美術の花形」として諸外国の王
に進呈され、明治以降は展覧会出品作の「形式
としても発展しました。

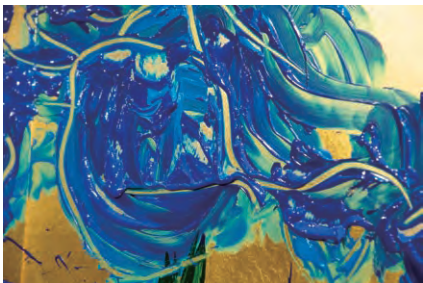
本展では、2019年に大好評をいただいた
「金屏風展―狩野派・長谷川派・琳派など―」
と趣向を変え、装いも新たに「黄金の世界」へ
お招きします。

最初の「金雲の間」では、狩野派が得意とした
力強い金雲や、大和絵風の雅やかな金雲など、
さまざまな金色の雲が巡り、続く「金銀の間」
では、銀箔や銀砂子が組み合わされた金屏風
が、落ち着いた雰囲気を作り出します。一転、
「金地の間」では、金箔におおわれた総金地の屏
風が光沢を放ち、「光琳風」や「近代の屏風」の
コーナーへと展開します。そして本展の最後に、
金屏風の伝統を現代につなぐ日本画家・福井江
太郎氏(1969)によるライブペインティング
の作品がお披露目となります。

当館の収蔵品約30件が立ち並ぶ「金屏風の
祭典」をお楽しみください。

※会期中、一部展示替を行います。

特別出品



(部分)



福井江太郎「楽」 令和5年(2023) 撮影:橋本憲一
2023年5月13日、当館5階ホールにて大勢の観客を前に、音楽に乗り
ながら筆と素手を使い、たった15分で描き上げた渾身の作。当館の風神
雷神の大壁画「風・刻」を2013年の開館に合わせて完成させた福井氏
が、10周年のイベントで金地のライブペインティングに初めて挑んだ。



池田孤邨
「燕子花図屏風」
江戸時代後期 19世紀
尾形光琳の燕子花図を
アレンジした1点。
もと衝立に貼られていた
もので、裏にあった銀の
八橋の絵が対となる。

光琳風

近代の
屏風



尾形光琳「菊図屏風」 江戸時代前期 18世紀
大輪の菊が咲き匂い、地面に白砂が洲浜形に広がっている。金地に白・緑・墨色が映える典雅な屏風。



川合玉堂「富嶽」 大正7年(1918)
絹の金地がやわらかな光沢を放つ。室町時代の雪舟以来の構図と江戸時代の琳派の表現が融合。



「紅白梅図屏風」 江戸時代初期 17世紀
直線的な垣根の内外に梅の木が配され、秩序と奥行きのある画面を構成。左右が入れ替わっても図柄がつながる。

